

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	令和6年度 第3回寒川町環境審議会		
日 時	令和6年10月21日(月) 14時00分～16時30分	開催形態	公開
場 所	寒川町役場東分庁舎2階 第1会議室		
出席者名 欠席者名 及び 傍聴者数	<p>【出席委員】片谷会長、三島副会長、中門委員、中峰委員、河村委員、大野委員、畑村委員、初鹿委員、市村委員、米山委員、弓座委員、嶋田委員</p> <p>【事務局】大山課長、椎野副主幹、越原主査</p> <p>【傍聴者】1名</p>		
議 題	<p>(1) 令和5年度版 寒川町環境報告書(案)について</p> <p>(2) 第3次寒川町環境基本計画の中期見直しについて</p> <p>(3) その他</p>		
決定事項			
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 環境経済部長あいさつ</p> <p>3 新任あいさつ</p> <p>4 会長あいさつ</p> <p>5 議事録承認委員の選出：米山委員、弓座委員</p> <p>6 議 題</p> <p>(1) 令和5年度版 寒川町環境報告書(案)について</p> <p>※第1回、第2回の議事内容等を踏まえて修正した報告書の内容について、<令和5年度版寒川町環境報告書(案)修正内容の説明 その2>により説明。</p> <p><1. 寒川町環境基本計画の趣旨>P1～P2</p> <p><2. 第3次寒川町環境基本計画について>P3～P10</p> <p><3. 令和5年度さむかわの環境の概要>P11～P18</p> <p><4. 第3次寒川町環境基本計画に示した取り組みの評価(令和5年度)>P19～P48</p> <p>【修正内容の説明 その2】P1</p> <p>※質疑</p>		

(片谷会長) 先ほど説明の中で、↓に修正というのがあった。それは、通例に従って変えているという意味でよかったか。

(事務局) データが目標値を達成した数値であったので○だったが、実際の数値が下がったので↓になった。

(中門委員) 照明のところで、LED化を進めるとあるが、2027年問題で蛍光灯が製造中止になると、急に替えるのは難しいので、LED化について何か手を打っているか。

(事務局) LED化について、寒川町は早く手をつけてあり、ご覧の照明は全てLEDで平成25年度にリースで入れたものになる。他に26年度に防犯灯約3,000本や公民館、町民センターなども全てLEDに切り替えている。学校は大規模改修のタイミングでLED化しており、大きな建物についてはLED化を進めている。ただ、小規模の建物については順次切り替えという形になる。

(片谷会長) これは装置を変えているのか。

(事務局) 安定器を外したりしている。紐がぶら下がっているものは非常灯で、消防法の関係で蛍光灯を使っている。

(中門委員) 省エネでどれくらい効果があったか。

(事務局) LEDを平成25年度に入れ替えて、その翌年に空調機をターボ冷凍機及びボイラーから電気式のヒートポンプに切り替えをしたので、灯油は0になったが、その分冬季の暖房で電気を使うようになった。そのため、LEDだけでこれだけ下がったという数値は出せないが、照明で言えば電気使用量は下がった。

(米山委員) 47ページの一番下の「再生可能エネルギー由来の電力調達による電力使用の低炭素化」で、令和3年から4年にかけて2施設が41施設と施設が増えている。5年度にかけて54施設で、備考欄には14施設とあるが、4年から5年は13施設になるのでは。

(事務局) 中瀬の分団車庫が地域集会所と重複していたのを解約したため1減となっている。そのことが分かるように追記する。

(米山委員) 3年から4年にかけて増えているのは、町内の特定の施設が大幅に入れ替わったのか。

(事務局) 令和3年度は美化センターと広域リサイクルセンターのみ再生可能エネルギー由来の電力を導入していたが、4年度はそれを他の対象に広げ、神奈川県でやっていた再生可能エネルギー電力のリバースオークションに参加した時に大幅に導入ができたという経緯がある。

(片谷会長) 電力会社から電力を買っていて、その由来が火力、原子力だったのが再生可能エネルギーになった。それは、町の施策とし

て切り替えをしたということなので、町の努力の実績として報告書でアピールしてよいのではないか。

(事務局) 町全体で言うと、CO2の排出量の8割は電気使用から出ているので、ここを重点的に減らしたく、各施設所管課と調整し再エネ電力の導入を拡大していった経緯がある。

(片谷会長) 電気関係の器具を更新する時に工事があり、それが業務に影響することがある。私の研究室が入っている建物が、今年の夏に空調機の入れ替え工事があり、一時的に他の建物に退避した。工事でかなり影響が出たことがあった。役場の建物でも工事が入って、問題なかったか。

(事務局) 会議室なら、土日か使っていない時に予約し、事務スペースになると日中は使用しているので、夜間や土日で行うなどしている。

(中門委員) 38ページで、ごみの減量化、資源化を図るところで、寒川町のごみはどのレベルがあるかだが、相模川のボランティアの関係で資料をまとめたので、紹介したい。環境省でデータを集計しているのがまとまっているので、そこを見た。全国では第1位は京都府がごみの排出量が少なく、滋賀県が第2位、神奈川県が第3位。京都や神奈川が頑張っている。家庭系も神奈川県は4位。また、神奈川県の中で各市町村では、座間市が1位、茅ヶ崎市、海老名市と寒川町の近くの市が上位に並び、寒川町も4位になっている。その次が綾瀬市、大和市なので、この付近は上位に名を連ねている。寒川町は一人1日あたりの排出量は723gになっているが、家庭系のごみで見ると438gとなっていて、神奈川県全体の平均よりも悪い。逗子市は全体の総排出量が多いが、家庭系だけ見ると少なく、神奈川県の中ではトップ。こういうところがどういう取り組みをしているか調べると参考になると思う。

(片谷会長) こういう仕事をボランティアでやってもらえれば有難い。町からコンサルタントに委託したら費用がかかるので。ボランティア活動にお礼を申し上げないと。今、全体の排出量で700、800が多い数値にはなっている。長野県では家庭系が低かったが、最近追い越された。寒川もいい位置につけているので、環境報告書に入れられないか。

(事務局) 環境省で取りまとめるので全部の市町村のデータが必要で、どうしても1年遅れになってしまう。

(片谷会長) 1年遅れでも仕方がないので、次の報告書でもいいので、寒川は実績のある数字が出ていて外に対するアピールという意味もある。町民にもう少しで1位だと呼びかける方法もあると思うので、呼びかけの仕方は事務局で考えてみてはどうか。

(中門委員) ごみのゲンゾウなどでPRするといいいのでは。

(片谷会長) せっかくのいいデータなので、何か活用を。1年遅れになるとしても、注釈を付けて、国の集計に時間を要すると書いておけば問題ない。いい傾向が見えるデータはなるべく強調するとよい。

(片谷会長) 事務局から報告書案の修正は説明してもらった。これに関連して事務局から報告することはあるか。

(事務局) 前回、松久委員から文化財の保護を町でどうしていくのかという話があったが、越の山の横穴墓群の話を確認したので説明する。越の山の墓群については、町や県・国の指定文化財ではなく、今後も指定の予定はない。神奈川県は横穴の墓群が多い地域で、茅ヶ崎や大磯にもあり、特別な条件がないと指定文化財には指定されない。また埋められた経緯は、昭和28年と60年に発掘調査がされ、その後土嚢を町で詰めたことは確認できた。管理は、横穴があるところが私有地になっており、越の山の県の樹木の保護地域になっていて、基本的には指定文化財ではないので普通の埋蔵文化財包蔵地と同じ扱いになり、所有者のご意向に沿った取り扱いになる。

(片谷会長) 指定文化財でないということは、土地の所有者がそこを宅地にしたいと考えた時には改変されるのか。

(事務局) 現在、県の樹木の保護地域になっているが、所有者のご意向次第と思う。

(片谷会長) 樹木は環境資源なので残る方向がよいが、将来の保証はされていないということか。樹木の保護地域はどこが所管か。

(事務局) 県の自然環境保全地域にあたり、寒川町では都市計画課が所管課になる。

(片谷会長) 将来どうなるかは見通せないということか。

(事務局) 相続などが生じたとき、手放したりすることがあれば、所有者さんのご都合次第になる。

(片谷会長) 今回調べた記録を環境課で保管し、次に変化がある時にできる対応を取るくらいしかない。今の件は松久委員に調べた結果の報告を。

(2) 第3次寒川町環境基本計画の中期見直しについて

※事業者からの町の取り組みの評価や、事業者の抱える課題やニーズの移り変わりについて、〈資料1 中期見直しに向けた事業者アンケートの回答比較〉により説明。

※質疑

(片谷会長) 町から見て望ましい結果が出たということか。

(事務局) 騒音、振動などの公害関係は関心があるという答えが 8 割 9 割を占めている。事業者の方の関心は高い。

(片谷会長) それを含めていい傾向。予算的に関心は高まっている。個別に見ていけばそうでないところもあるが、一般的には事業者は関心を持っているという理解で。これはどこかに書かれるのか。

(事務局) 全体的な分析は総括で書いているが、あとは町民アンケートも e マーケティングの回答内容と合わせ、回答結果を見ながら、町民や事業者が環境をどう考えているのか公表していきたい。

(片谷会長) 昔から環境意識と言っている分野だが、細かく分析すると難しい。今回、町民と事業者と同じように関心が全体的には持ってもらえているというまとめになりそうか。

(事務局) 町民アンケートの集計がまだなので、傾向がつかめていないが、e マーケティングを見る限り、環境がよくなっているという情報が町民に行っていないと思う。

(市村委員) 今回この資料で、何点かお伺いしたい。全部単位がパーセントにしている理由は。件数ではなくパーセントがよいのか。

(事務局) 件数は回答件数が異なっているので、パーセントで図った方が比較できる。

(市村委員) 一つ一つ設問が違うのもあるが、グラフの縦線の単位がバラついてるのが気になる。9 割程度の高さに収めているが、単位を揃えた方が見やすいと思う。目盛りが揃っていた方が、高さが違うところでどれくらい興味があるか見やすい。

(事務局) エクセルでやると自動でこうなるので、5%と 10%で並べてみて、より見やすい方で取るという形で修正する。

(市村委員) グラフの高さが 4 割程度も 8 割程度も同じラインになるので、揃えた方が見やすい。これは、表に出る資料か。

(事務局) 今回の審議会の議事録が完成したら、審議会の資料としてホームページに上げる。

(市村委員) 弊社でやる時はパーセンテージのものは円グラフにすることが多いが、前年度との比較では棒グラフの方が見やすいのと、設問の内容が細かい部分があるので、表示が仕切れない部分が出て来るのかもしれない。幅が狭いのが出て来てしまうかもしれないが、グラフの高さは揃っていた方が見やすいと思った。

(片谷会長) エクセルの設定だけの話なので修正するように。

(市村委員) 33 ページは 120%になっている。複数回答の設問もあるので、100%にならないのは全然構わないが。

(片谷会長) 事務局で対応を。

(中門委員) このアンケートを取ったのは令和 2 年と 6 年で 4 年の経年変化があるが、この間の社会情勢の変化はかなり大きかったと思

う。環境問題が1992年の地球サミットから大きく盛り上がり、30年経って新型コロナで世界情勢が環境よりも違うところで動いている気がする。この間の変化は環境問題にとっては悪化している。何が言いたいかというと、自治体でぶれることなく長年継続してきたことをいかにきちんとやっていくかということだと思う。事業者もいろんな変化があると思うので、それと行政がどのようにマッチングしていくかは、かなり違った形になってくると思うので、寒川町の基本計画をきちんとしながら、新たにPFASとか、水害があったり、町民がいかに安心して環境に目を向けていけるかを表面に出していかないと、アンケートの結果でこう変わりましたとしていくと、その間の大きく変わったところが、前にやっていた環境活動をほどいて新しいものをつくっていくと、違うのではと感ずるので、こういう環境を中心にやっていくところはぶれてはいけないと思う。

(事務局) コロナは大きな社会的なことかと思うが、環境を取り巻く状況で言うと、環境面で悪化したという意見はそうかなと思う。令和2年度に計画を作った時の条件と今の条件は違うということが中門委員が言いたいことだと思うが、そこを比較してアンケートの結果に反映してお示しするところまでは難しいと思う。

(片谷会長) 影響が何もないということではなく、少なくとも影響を与えていると思われるが、令和2年と6年だから、コロナが始まった年と終わった年という状況なので、解釈が難しいところもあると思う。

(中門委員) 行政が補助金を出していれば、環境問題をやっていると見せられるところはあった。行政として例えば雨水浸透柵をやっていくとすると、雨水浸透柵を普及していきたいが、補助金は限度額になったら申請されても終わりということがある。やりたいけど金がないから出してくれればやるというのも、活動をやろうとしても進んでいかない。そういう折り合いを付けながら、それでも環境活動は大事なので、こういうところはお願したい。

(片谷会長) 確かに助成的な裏付けがあればできるが、自前でやるのは難しいという回答はこういう調査をすれば出て来る傾向にある。情報を提供してほしいという要望は理解できるが、金銭的なインセンティブを与えてほしいという趣旨になるとなかなか難しい。それが国や都道府県レベルならともかく、市町村レベルでそれをするのは厳しいから、「ご意見は何いました」レベルの扱いにせざるを得ない。それも含め、町としてこの結果をどう解釈しどのように取り入れていく方針と言わなくてはならない。それはどのようなタイミングになるか。

(事務局) この後計画の中身の修正をかけていくのだが、町民アンケートの経過を踏まえて計画に反映していくようになると思う。

(片谷会長) 審議会が決める作業としては、いつ何を決めればいいのかある程度プランされているか。

(事務局) スケジュールを前回出させてもらったが、事務局の見直しの方向性について、案を提示したいと思っている。今回、事業者アンケートのほか、庁内で検討した結果をこの後説明し、それを踏まえて事務局の案の見直しの方向性を提示させていただきたい。

(事務局) ただ、事業者のアンケートしか示してないので、加えて町民のアンケートを含めて全体の見直しの内容を固め、委員の皆様からの意見を聞き、まとまったらそれをパブリックコメントにとり入れるという流れになる。事業者のアンケートはこうだったが、町の方向性としてはこういう形にしていきたいと、補助金の要望もあったが、そこについては会長も言われた通りご意見として賜り、国や県の補助金の情報提供をしっかりと取り組んでいきたい。

(片谷会長) 今日は事業者アンケートは説明してもらったが、町民アンケートはこれからということで、今日結論レベルまで行くわけではないという理解でよいか。

(事務局) この後、資料2以降を説明する。

(片谷会長) まず一通り説明し、それでもう一度事務局は整理するというでよいか。そうしたら、説明に行く。

※前期期間における環境指標等の達成状況及び中期見直しの必要性について、〈資料2 第3次環境基本計画の中期見直しに関する取り組み内容等の庁内検討結果・見直しの方向性〉、〈資料3 第3次環境基本計画の中期見直しに関する取り組み内容等の庁内検討結果_別紙〉により説明。

※質疑

(片谷会長) 提供された情報の量が多いので、消化しきれないが、今説明を受けた内容で理解しきれない内容があれば質問を。

(中門委員) 資料3の6ページ、ごみの減量化で一人1日あたりのごみの排出量が去年の12月に改訂された内容か。

(事務局) 去年の3月に改訂した内容である。

(中門委員) 気になるのは、今までの数字をいいところにいるとPRした時、この数字を見ると目標の数字が悪い方に上がっていく。上がったのがどのようなことで変わったか見えるようにしないと、目標値が変わることは難しい。それから、4-3の雨水貯留施設設置補助件数は補助の予算があると思うが、何件まで補助できると見えてないと、件数だけ入れても理由がないと。それから、文書館のことが書いてあった3ページ目、「歴史・文化

を保全し、次世代へ継承する」で、文書館の普及事業の目的と関連が薄いと書いてあるが、文書館の目的や運営するための基本理念があり、それと環境的にやるのがどこか見えてないと、やり方としてよくない。文書館も目標としている寒川町の公文書を残していく基準があり、文書館で資料をどういう方法で残そうとしているのか、それは町民の望んでいるやり方なのかを含めて見ると、文書館普及事業と環境との関わりが見えてこない。文書館は展示を定期的に行っているが、例えば関東大震災から100年経ったから、今まで持っている資料で町民に分かるようにしていくのは環境と関わると思うが、ちがうところで文書館と環境はどういうのか見えない。もう1つ、小出川のところで、宮下橋は県の基準をクリアしているとあったが、宮下橋は小出川の一番下流で茅ヶ崎の柳島のところ。寒川町が関わっているのは追出橋から大曲橋までで、その水質基準がどうなっているのか。宮下橋が水質基準に達しているから何もしなくても、寒川町に流れているところが水質基準がどういう点にあるか。

(事務局) ごみの目標値そのものは上がっている。備考欄に一般廃棄物処理基本計画の目標値と整合と書くのか、どのような形がよいのかは検討したい。次に、雨水貯留施設設置補助は年間5件までの補助だったと思うが、実際0の時も、2の時もあるし、予算まで行ってないという現状がある。予算はゼロカーボンにも影響するので、この部分はどうかと思うが、書き方もどのような方法があるのか検討したい。文書館は、文書館そのものの事業の目的と直接はマッチしない。ただ、文化財そのものが間に入らないと自然共生のところまで一本化しない。実は文書館からも違うのではと言われていた部分なので、文化財の件数であれば教育政策課の取り組みになるが、自然共生の方につながった形で周知できるかなと、こうした形にした。

(片谷会長) 他のご意見があれば。

(河村委員) 学校から2つ、1つはここまでの感想、2つ目はお願い。1つは、今まで話の中で学校と事業者のアンケートの結果が出た。もう1つは中期見直しが出てきたが、その3者の現状が感慨深いと思う。町として関係各課と調整して形にするのはいいことだと思うが、学校は環境問題について、コロナ渦だろうが、弱めていない。いつも前に進んで時代に即して、未来将来どうつくっていくかと問いかけながら、子供たちに考えさせて教育を行っている。一方で、事業者のアンケートが100%がネガティブとは言わないが、実際問題環境保全を経済発展よりも優先するという割合が8割から半分になっている。実際、人手がない、時間がない、金がない、事業に則していないと、環境よりも生き残っていくことが大事だと匂ってくる

ろが見えたと思う。一方で、町のこれからの方針だが、一つが目標値が高く、現実に即していないから目標値を修正するとたくさん出てきた。実情に合っていない、理想と現実のギャップが見えているところで、町はこうしていきたいが、実際にはそこに到達できないから目標値を下げる。そうすると、学校と子供たちは前に進もうとしているが、現実社会はそうになっていない。そこを学校はどうやって教えていけばよいのか悩ましいと思う。中学生なら考えさせていくが、小学生に今現実はどうなっていないとは言えないし、教えていくことは教えたいと思うが、理想と現実と教育でどうしていけばいいか今日話を聞いて考えるところが多かったと思う。2つ目に、最後に出してもらった資料3の中に出前授業という言葉が出ている。前回はアンケートで話をしたと思うが、今学校は授業が手一杯で、新聞等で皆さんも読んでいると思うが、中身盛沢山のぎゅうぎゅう詰めで時数もまんぱんでやっている中で、今日的な課題と言われているもの、防災教育だったり環境教育も。教育と後ろに付けると、なんでも学校の責任になってしまう傾向がある。申し訳ないが、環境という教科はない。だから、出前授業というと崇高なもののように聞こえるが、出前授業を課題として目標に入れるのであれば、学校側はそれを受け入れるため、何かを節約して時間を作り出し、何かと一緒に関連付けてカリキュラムを作っていかなければならない。だから、町内で1校受け負ってと言われても、学校は困る。ただ、南小学校で言えば今年もパッカー車に来てもらい、ごみに関してやってもらった。実際に見て感動して実感がある学びは、本当によい学びとなるので、協力は前向きにやっていくが、ただいい時期に出前授業をやると言われると学校も困惑するので、教育委員会事務局も含めて学校の方も実現の可能性や、どうしたらよいものになるのかは検討してもらえればと思う。ぜひ、前に進むことを学校もやっていかれたらと思う。

(片谷会長) 現実的という表現がよいか分からないが、学校という立場で考えられる課題にかなり違いがある。そこは事務局で見直してもらおうこととお願いできるか。今の指摘は事務局の次回までの宿題にさせてもらい、今の意見をどう反映させられるか検討を。次回はこれをどこまで仕上げるのか。

(事務局) 次回の会議を11月に予定しているが、その中で町民アンケートの結果と、もらったご意見を踏まえた事業者アンケートの修正と、環境基本計画の冊子に今回もらった内容を落とし込んでいけたらと思う。そして、案としてそれに修正をかけ、今後パブリックコメントを踏まえた形で進めていけたらと思う。1月などのタイミングになると思うが、それに向けて進めていければと思う。

	<p>(3)その他</p> <p>※連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本議題に対する意見については 10/31(気)までに環境課まで提出。 ・最終的な文言修正等は正副議長に一任させていただく。 <p>6 閉会 三島副会長あいさつ</p> <p>以 上</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・令和5年度版寒川町環境報告書（案） ・令和5年度版寒川町環境報告書（案）修正内容の説明 その2 ・資料1 中期見直しに向けた事業者アンケートの回答比較 ・資料2 第3次環境基本計画の中期見直しに関する取り組み内容等の庁内検討結果・見直しの方向性 ・資料3 第3次環境基本計画の中期見直しに関する取り組み内容等の庁内検討結果 別紙 ・資料4－1 第3次環境基本計画の中期見直しにおける取り組み内容・環境指標確認シート 基本目標 ・資料4－2 第3次環境基本計画の中期見直しにおける取り組み内容・環境指標確認シート 重点プロジェクト ・『令和5年度版寒川町環境報告書（案）』について（中門委員資料）
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	<p style="text-align: center;">米山明夫 弓座晴生</p> <p style="text-align: right;">令和6年11月15日（金）確定</p>